

民

進党代表選が盛り上がりながらな
い。9月15日の投票票では連
舩代表代行の当選が確実視され、民
主党時代を通して初の女性代表が誕
生する。連舩民進党は清新さをアピ
ールして党再生に取り組みることにな
るが、世論の関心は冷めている。内
紛と分裂によって自壊した民主党政
権への失望と忌避感は今なお国民意
識の底深く、澱のように沈殿したま
まだ。

「男を下けた2人」(中堅議員) —
。民進党結党後初の代表選となっ
た今回、党内でこんなあしざまな批
判を浴びているのが岡田克也代表と
細野豪志元環境相だ。

東京都知事選の投票前日に代表
選不出馬を表明し、ひんしゆくを買
ったのが岡田氏。都知事選では鳥越
俊太郎氏を野党統一候補として擁立
し天敗した。その責任を取る形では
代表選不出馬に追い込まれたくない
から、都知事選の結果が出る前に不
出馬表明に踏み切ったのではない
か。そんな臆測が広がり、都知事選
最終盤の選挙戦を戦っていた鳥越氏
陣営からは岡田氏に対し「無責任」
「敵前逃亡」などの不満が噴出した。
代表選前、保守系の中堅・若手か
ら待望論が出ていながら、いち早く
連舩氏支持に回ったのが細野氏。参
院選で共産党との「民・共」協力に
かじを切った岡田執行部に対し、細

東 奔 政 走



男を下けた? 岡田、細野氏の決断 分裂の芽摘むも民進党再生の道険しく

ひらた 崇 浩 (毎日新聞世論調査室長)

野氏のグループは馬淵澄夫元国土交
通相や長島昭久元防衛相の保守系
グループと連携して「民・共」路線
に反旗を翻すものとみられていた。
代表選に出馬した前原誠司元外相も
細野氏の協力に期待していただけ
に、彼ら党内保守系の目に細野氏の
行動は「裏切り」と映った。



だが、「男を下けた2人」の意図は
批判されるような利己的なものだっ
たのだろうか。2人の行動が生んだ
結果から考えてみたい。

もしも岡田氏が代表選に出馬して
いたら。「民・共」路線の是非が
党内を真っ二つに分ける最大の争点
になっていたはずだ。党内保守系に
は改憲派が多く、岡田氏が「安倍晋
三首相のもとでの憲法改正には反
対」と言ってきたことへの反発もあ
る。岡田氏の再選出馬を前提に、党
内保守系の一部で練られていた代表
選シナリオをここで紹介したい。

岡田氏に對抗して細野氏と長島氏
が代表選に出馬▽特に長島氏は岡田
執行部の「民・共」路線と改憲反対
論を激しく批判▽初回投票で岡田氏
の過半数獲得を阻止し、1位の岡田
氏と2位の細野氏の決選投票になれ
ば、3位の長島氏が細野氏を支援(2
位・3位連合)▽細野氏が当選すれ

ば、長島氏も執行部入りして路線転
換▽岡田氏が再選されれば、長島氏
ら党内保守系の一部が離党し、日本
維新の会と連携を図る——。

このシナリオは岡田氏の不出馬に
よって土台から崩れた。岡田氏は自
ら身を捨てることによって、党分裂
の芽を摘んだという見方もできる。

それでも細野氏が出馬し、「岡田執
行部系の連舩氏」対「反執行部系の
細野氏」の対決構図になっていたら、
シナリオは「岡田氏」を「連舩氏」
に差し替えて実行されたかもしれな
い。細野氏が連舩氏側に付いたこと
によって、「執行部系」対「反執行部
系」の構図は薄れた。

「連舩さんとはこれまで何度も話し
合い、憲法についてしっかりと議論
を進めることや、共産党と政権を目
指すことはないなど基本的な認識に
ついて合意に至った。『主流派』『非
主流派』という壁を乗り越え、党を
一つに結集させる力があると確信し
ている」。細野氏は連舩氏支持を正式
に表明した際、その理由をツイッタ
ーでこう説明した。

前原氏が反執行部系から出馬して
はいるものの、細野氏の離反で党内
支持は広がり欠く。反執行部系の
急先鋒、長島氏は出馬を断念した。
そして、世代交代を訴える第3の候
補、玉木雄一郎国対副委員長が名乗
りを上げた結果、代表選の争点は「岡



民進党分裂の芽は摘まれたが……
 (党代表選候補者の街頭演説に並んだ、右から蓮舂代表代行、前原誠司元外相、玉木雄一郎国対副委員長(左端)＝大阪市北区で2016年9月3日)

田路線の是非」ではなく、「民主党失敗の反省」と「改革政党としての再生策」に移った。

「1対1は亀裂が入るからよくない、3人でやった方がいい」

玉木氏の出馬を後押しした菅直人元首相は、その理由を周囲にこう話しているという。菅氏と小沢一郎生活の党共同代表が1対1で激突したのは2010年の民主党代表選だった。このとき、「親小沢」対「反小沢」の亀裂が一気に表面化し、その後の激しい内紛と党分裂へとつながっていった。当時、「親小沢」だった細野氏も、「反小沢」だった岡田氏も、その苦い記憶を共有しているからこそ、今回、「男を下けた」と言われようと、分裂の芽を摘むことを最優先したのだろう。

安倍政権にお株奪われ

ただし、こんな内向きの論理は国民には通用しない。民主党政権によって国民意識にすり込まれた失望と忌避感という負の遺産。進歩民進党はこれを払拭し、再び政権交代への期待感を高めることができるのか。

そう考えたとき、共産党と組んで安全保障関連法に反対し、参院選で野党統一候補を立てることでしか安倍政権に対抗できなかった岡田執行部の「失策」は明らかだ。集団的自

衛権行使の憲法解釈変更」「立憲主義を守れ」と叫んできたことが悪いとは言わない。しかし、そうしている間に安倍政権は企業に賃上げを迫り、今度は「働き方改革」を掲げて長時間労働の是正と同一労働同一賃金にも取り組もうとしている。

我が党は「生活者」「納税者」「消費者」「働く者」の立場に立つ。民進党綱領の一節だが、これらの看板は安倍政権に奪われたかのようだ。民進党が内向きの論理で党分裂の芽を摘んでいる間に、安倍政権は政策の先取りによって民進党再生の芽を摘んできた。

『毎日新聞』が9月3、4日に実施した全国世論調査で、民進党の新代表に誰がふさわしいかを尋ねたところ、蓮舂氏と答えた人が32%で、前原氏は19%、玉木氏は4%。ただ、回答のトップは蓮舂氏ではなく、「関心がない」の34%だった。

共産党との選挙協力については「続けない方がよい」が51%で、「続けた方がよい」は28%。世論の抵抗感は強いようだが、その理由は「共産党アレルギー」なのか。「続けた方がよい」と答えた60代男性の意見が印象に残った。

「それは続けるしかないでしょう。共産党より民進党へのアレルギーの方が強いんだから」

民進党再生の道は険しい。

